

議会運営委員会研修視察報告書

1. 実施日 令和6年10月15日(火)～10月16日(水)

2. 参加者

委員長	宮永万里子
副委員長	澁木 茂
委員	塚田 義一
委員	都丸 裕史
委員	田邊 信雄
委員	青木 満
議長	渡邊 明
事務局	村田 浩二
事務局	久保田輝己

3. 視察地 新潟県胎内市

新潟県見附市

4. 交通機関 貸切バス

5. 視察結果 別紙のとおり

◎視察地：新潟県胎内市（令和6年10月15日（火））

◎視察内容：議会モニター制度について

新潟県胎内市新和町2番10号

・面積：264.89km²

・人口：26,999人（令和6年9月1日現在）

○概要（胎内市HPより抜粋）

平成17年9月1日、中条町・黒川村の1町1村の新設合併により「胎内市」が誕生しました。

新潟県の北東部に位置し、県都新潟市から約40km、日本海東北自動車道で新潟から中条ICまで30分で到着します。東に飯豊連峰が、西には日本海が広がっており、飯豊連峰を源とする胎内川を中心に市域が形成されています。上流部は、四季折々の溪谷美に彩られるほか、胎内川扇状地には緑の優良農地が広がり、河口を中心とする15kmに及ぶ海岸線には砂丘と松林があります。面積は、264.89km²、世帯数10,928世帯、人口26,999人が暮らしています。

市名は、市域を流れる清流「胎内川」に由来するものです。「胎内」とは、アイヌ語で「清い水の流れ」を意味し、流れの一部が伏流水となって豊富な地下水をもたらすことから「胎内」とも伝えられており、住民にとっても親しみ深く、地域の豊かな自然と深い歴史を育んできた川です。

基幹産業は農業で、稲作を中心に畑作などの複合経営が営まれており、加えてクラレ中条工場、日立製作所などの企業進出や中核工業団地が造成されるなど、県北の工業都市としての基盤を確立しています。また、豊かな自然環境を活かしたスキー場、リゾートホテルなど公営の観光施設が整った観光都市でもあります。

■胎内市議会 議員定数16人 現員数14人

○委員会構成

- ・議会運営委員会 6人
- ・総務文教常任委員会 9人
- ・厚生環境常任委員会 8人
- ・まちづくり常任委員会 9人
- ・議会報編集特別委員会 6人

【まとめ】

新潟県胎内市議会では、議会改革の一環として、令和2年10月から議会モニター制度を実施している。

モニターの定数は12人、任期2年で、公募もしくは適当と認めた団体等に対し、適任者の推薦を依頼して選任する方法で編成している。

1期目に公募により選任されたモニターは2人だけで、残り10人は各種団体から推薦された者で構成されていたとのことである。また、男女比率は男性10人に対し女性は2人だけであった。

現在の2期目は、男性6人女性6人となり、男女共同参画に配慮された構成になっている。

1期目の議会モニター会議は5回実施されているが、議会モニターの参加者数は、2回目11人、3回目9人、4回目8人、5回目は6人となっており、回数を重ねるうちにマンネリ化して、制度の運営に苦心している様子が窺われる。

議会モニター制度は、それがうまく機能すれば、開かれた議会づくりや、議員のなり手不足解消の有効な手だてにも成り得る可能性があることから、わが大泉町議会でも、検討対象として候補に挙げられてはいる。

今回の視察を通じて、モニター募集やモニター会議の方法など、導入する際の運用の仕方を学ぶことができたので、有意義な時間となった。

◎視察地：新潟県見附市（令和6年10月16日（水））

◎視察内容：タブレット端末の導入について

新潟県見附市昭和町2丁目1番1号

・面積：77.91km²

・人口：38,179人（令和6年10月1日現在）

○概要（見附市HPより抜粋）

南北に長い新潟県のどまんなかに位置するまち、市内には、信濃川水系の刈谷田川が流れ、豊かな水と清涼な空気に恵まれています。豊かな自然、県内でも有数の田園地帯を保有していることから、春の芽吹き、夏の深緑、秋の紅葉と黄金色の稲穂、そして冬の銀世界、四季折々の風情を味わうことができます。

市内には、医院やスーパーなど生活に欠かせない施設も多くあり、市民の生活を支えています。また、北陸自動車道など交通網にも恵まれ、自動車ですら30分足を伸ばせば、海に山にさまざまなレジャーを堪能できます。

産業面においては、これまで、肥沃な土地による農業と繊維産業を基幹産業として、まちの発展を遂げてきました。繊維の歴史は1800年頃から始まり、幕末には見附結城が全国的に高い評価を受けるようになりました。その後長い間、見附は、染色・織物・ニットなどの総合繊維産地として知られるようになりました。

現在では、国道や高速道路などの交通網に恵まれた立地条件から、さまざまな業種の企業が市内に進出してきていて、過去の繊維産業だけに頼ってきた産業構造から、多種多様な業種で支えるバランスの取れた産業構造へと様変わりしています。中でも、プラスチック製品製造、一般機械器具製造、金属製品などが躍進しています。

■見附市議会 議員定数17人 現員数17人

○委員会構成

- ・総務文教常任委員会 8人
- ・産業厚生常任委員会 9人
- ・議会運営委員会 8人
- ・議会だより編集委員会 5人
- ・議会改革特別委員会 16人（議長を除く）

【まとめ】

新潟県見附市議会では、令和3年11月からタブレット端末の導入を始めており、その取り組みや経過、成果や課題について大変参考になった。

中でも特に参考になったのは、導入当初は移行期間を設け、議案等を紙とデータの両方で配付していたことや、完全移行後も予算書と決算書だけは、紙とデータの両方で配付していることである。

もう一つは、ペーパーレス化の費用対効果についてで、議員定数が17人の見附市と、15人の大泉町と違いはあるが、見附市の場合、印刷費用を含めた紙による資料配付の経費が年間約388万円だったのに対し、タブレットへのデータ配付により年間約130万円、率にして約1/3の経費が削減できた点である。

タブレット端末は多くの自治体で導入されているが、クラウドやアプリをタブレット端末以外の私用PC等でも使える様にしており、運用面でかなり柔軟に対応していると感じた。

タブレット端末は手段であるが、現在のデジタル化社会を理解するためにも端末の操作能力向上は必須である。

DX化を推進していくためにはソフト面での整備をしていく事の重要性を改めて再認識した。